

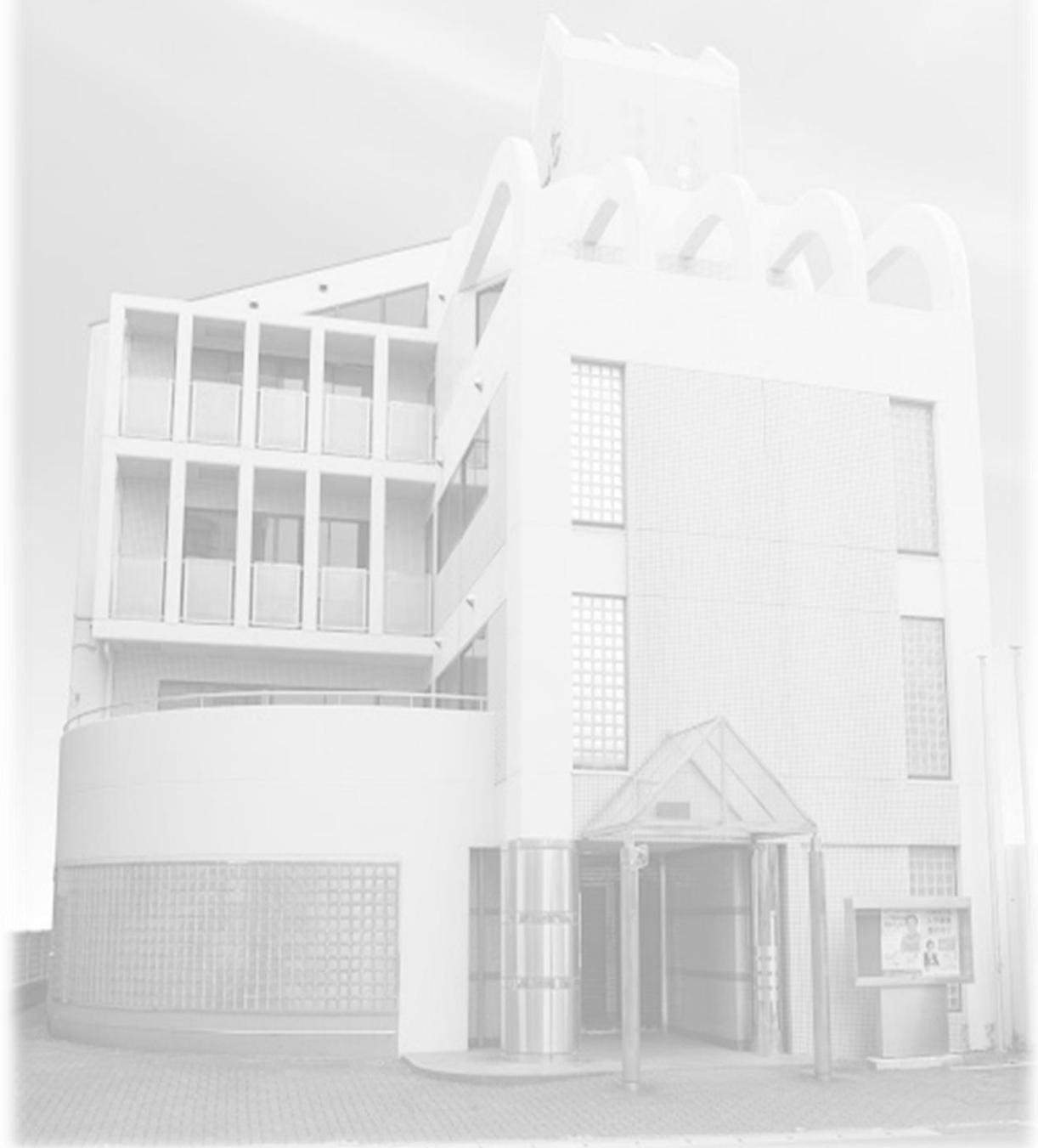
令和6年度 卒業文集

旅立ちの日に

福岡城西学園を卒業する前に一人ひとり書いてくれた作文を文集にしました。
卒業生一人ひとり、それぞれがそれぞれの想いを持って書いてくれています。
今までの人生において経験してきた事、高校生活の事、これからの中の夢など、
ありのままの表現で書いていますので、あえてそのままの文章で掲載させてもらっています。
読みづらい箇所については何卒、ご了承ください。



福岡城西学園





福岡城西学園 校歌

【作詞】松本 レイ(5期卒業生)

在校生(10~12期)

【作曲】松本 レイ(5期卒業生)

【編曲】天本 健

【サウンド・プロデュース】松下 典由

1. 扇を開けたら 潮風が吹きこんできた
聞こえるチャイムは 始まりの合図だったんだ
黒板に書いたラクガキ 遠回りした帰り道
共にながした汗涙 青春はすぐ側に落ちてる
歩いていこう この道を 福岡城西学園へと 希望いだいて
僕らは今 一歩前の世界で生きている
勇敢な冒険者だから怖くはない 明日が楽しみだ

2. 瞳を閉じたら 波音が響いていた
こぼれる涙は これからガイトーだったんだ
桜着飾るよかトピア 命が宿るプラタナス
いろとりどりの並木道 百道浜少し寂しくなる
歩いていこう この道を 福岡城西学園へと 希望いだいて
ひとり旅を終えてから たどり着いた奇跡 忘れずに 手を取り合い今
夢をつかもう怖くはない 明日が楽しみだ

K. I (福岡市立玄洋中学校出身):**九州産業大学(経済学科)**

私は中学2年生の途中から卒業までの間、不登校を経験しました。当時の自分は思春期真っ只中だったこともあって、親に相談ができず、自分の心の中で抱え込むことが多々あったので、自分を責めることが多く、自分のことが嫌いになっていました。

そんな精神的にもどん底だった中で、この学校のことを知りました。個別説明会や高校入学準備講座に参加して、この学校でなら通えそうだと思い入学しました。入学してからは学校に馴染むことで精一杯で心の底から学校生活を楽しめるとは言えない状況が続いていましたが、だんだんと馴染んできてからは友達と話す機会が増えたこともあって、学校にいることが楽しいと感じられるようになりました。授業も、中学時代にまともに勉強してこなかったため、不安を感じていましたが非常にわかりやすく、レポートも分からぬところを聞き手に分かるように説明してくれたりして、とても助かりました。大学受験でも志望理由書の作成から二次試験の面接・プレゼンの練習まで協力してくださり、合格することが出来たので先生方には本当に感謝しています。

そういういた素晴らしい環境で過ごしたこと也有って、自分を責めることが少なくなっていました。この学校で過ごした日々は私にとってかけがえのない思い出となりました。卒業後は大学生としての新たな生活がはじまりますが、この福岡城西学園で学んだことを忘れずに活かしていきたいと思います。

K. T (福岡市立友泉中学校出身):**SUNWOOD 株式会社**

私は、「普通」になりたい。これは、中学生の時、学校に行かず、家に引きこもっていた時に、私が思っていたことです。普通の高校に行くために、出席日数が足りない中、この福岡城西学園を見つけました。私がこの高校生活を通して学んだことは、多くはありません。ですが、私にとってコンプレックスであった、「普通になりたい」を、「普通じゃなくてもいい」に変えてくれたのがこの学校でした。高校一年の頃、初めて、教室に入った時、クラスに普通な人はほぼいませんでした。とにかく個性豊かな人がたくさんいて、その人たちと、関わることで、私は少しくらい普通の枠から外れてもいい、普通じゃなくてもいい、と思えるようになりました。今考えると、ちっぽけな悩みだったと思います。この学校に居たからこそ、見つけられたものや、感じられたことがあり、それがいまの自分を作っていると思います。この高校生活で学んだこと生かして、周りの人にとらわれない、立派な大人になりたいです。

自分にとって大切な事を学んだ 3 年間でした。

S. H (福岡市立内浜中学校出身):**ブロガー**

ひとりじゃない三年間

私は小学三年生のときに、学校に行けなくなりました。

そこから人と会う機会はほとんどなく、勉強も十分にできていませんでした。この学校に入学する前は、ちゃんと学校生活を送れるのか、人と話せるか、不安でしかたなかったのを覚えています。

でも、気づけば私の周りには大切な友人たちがいて、一緒に笑い合える毎日がありました。この三年間で、私は人とつながることの楽しさや温かさを知ることができました。最初は通学することすら不安だったけど、友達ができてから、毎日が楽しくてしかたなくなりました。数年ぶりに受ける授業はすごく新鮮で面白くて、午後のキャリア授業では普段やらないことに挑戦でき、楽しく学ぶことができました。今までほとんどやったことがなかった体育祭や文化祭などの学校行事にもたくさん参加することができました。

文化祭の準備はとても大変だったけれど、友達や先生と協力して最高の思い出を作ることができました。スクーリングやレポートなどでつまずいたときも、一緒に頑張れる仲間がいたからこそ、乗り越えることができたんだと思います。休み時間や放課後、休日に友達と遊んだり話したりする時間は、自分にとって特別な時間でした。この学校に入る前の数年間は、そんな日常を過ごすことがなかったからこそ、余計に楽しく、優しくて、幸せな時間でした。ここで出会った人たちは、みんな本当にやさしくて、一緒に過ごした時間はかけがえのない宝物です。自分はひとりじゃない、そう気付かされました。

これから、それぞれ違う道を歩んでいくけれど、この三年間で感じた喜びや温かさを大切にしながら、これからを頑張ろうと思いました。不安で真っ暗だった未来も、今では少し明るく見える気がします。

K. I (福岡市立田隈中学校出身):**就職**

僕がこの三年間で学んだことは、「学ぶ=楽しむ」という言葉だ。

この高校三年間、色々な事を学び続けるなかで学ぶ、楽しむという言葉はいつも自分自身を前向きにしてくれ、どこが前向きな考えなのか、まず学ぶということはそれまでにその知識がない状態で、人に教えてもらってやっと1人でき、ここで人とコミュニケーションをともどもでき、そこからは1人でする楽しさ、みんなでする楽しさなど様々な楽しみを自分自身で見つけだす。これは僕が三年間で学んだことだ。

そしてもう一つ、この三年間で確信したことがある。それは、「自分の人生は自分でしか変えることができない」というもう一つの言葉。誰でも知っていてあたりまえのようなことだけど、高校生になって改めて聞くと本当にその通りだなと思った。そこから全ての物事に対して、俺

ならできる。俺にしかやれない、と思い込むようにしている。人生なんてお手本もなければ正解もない。何が起きようとも、どうなろうとも自分が歩んだ道を正解にするしかない、だからこそもう後悔はせず、自分がした選択にひたすら突き進もうと思う。

R. Y (福岡市立内浜中学校出身):[日本デザイナー学院](#)

時と進む心の変化

授業最終日、みんなと一緒に授業受けるのも今日が最後かと思っていた時、僕はふと、この学校に入学する前のことを思い出した。

僕は中学の頃あまり学校に行けておらず、進路に悩んでいた、そんな時友人から福岡城西学園を教えてもらい、高校入学準備講座を受けることにした。ドキドキしながら学校へ向かったが、その帰り道そのドキドキは無くなっていた。学校の雰囲気がとてもよく先生や先輩方が優しく話しかけてくれて温かい気持ちになれた。その時、僕は絶対この学校が良いと、その時僕が抱いていた進路の不安が無くなった。

入学後、仲の良い友達ができ、新しい趣味もでき、楽しい高校生活を送っていたのだが新たな悩みが出てきた。2年生の頃「進路」の話があった。大学、専門、そして就職。自分は何がしたいのか、明確に定まっていなかった。とりあえず大学のオープンキャンパスに行ってみたが、しつくり来なかった。

ある日進路に向けた授業で自分の好きな物から進路を決める手もあると聞いた。色々調べ、ようやく自分がやりたい好きな仕事を見つけることができた。先生と相談し、デザインの専門学校を目指すことにした。だがしかし、どの専門学校もピタッとこなかった。が、一校だけ違った。ここが良い、ここに通いたいと思えた。福岡城西学園の雰囲気に似ていた。先生と生徒の距離感、先生や先輩の優しさ、何よりも楽しそうだと、心からそう思えた。高校を決めた時と同じ気持ちだった。その時初めてわかった、僕はずっと福岡城西学園と似ている学校を探していたんだ、楽しくて、安心出来るそんな学校を。ここにしよう。いや、絶対に「ここがいい。」

時は経ち、無事専門学校に合格した。残りの学校生活を存分に謳歌した。卒業が間近に迫ってきた。もちろん今後の心配の種は山ほどある。でもそれに勝るほど今後が楽しみである。そんなことを思いながら僕は最後の授業を楽しんだ。

Y. K (福岡市立下山門中学校出身):[福岡国際医療福祉大学](#)

私は、この高校で沢山の思い出が出来たり、色々なことを学んできました。あらためて、今、振り返ってみると、本当にこの学校で良かったなあと思っています。

私のこの学校での一番の思い出は、2年生の頃に行ったセブ島です。セブ島では、なかな

か慣れない生活を送りながら、いろんなことにチャレンジしました。英語で現地の方とコミュニケーションをとったり、日本では、食べられない食べ物とかもチャレンジしました。このように、ふだんではなかなかできないこともチャレンジしたことで、とても充実した日々を送りました。また、学校生活でも、中学の頃と比べると、高校生活の方が、チャレンジした回数が多くなったのではないかと感じています。私は、中学の頃は持病の影響で、学校にはあまり行けなかったので、高校に入って、体調が落ち着き、登校する回数が増えていき、チャレンジする回数も、だんだん増えていきました。特にチャレンジし、力を入れたのがコミュニケーションです。なぜかというと、私は人とコミュニケーションをとることがとても苦手でした。しかし、高校へ入学し、とても優しい友達と先生方のおかげで、ある程度のコミュニケーションもとれるようになりました。今まで、沢山の友人達や先生方からの、優しい言葉や行動のおかげで、私は、学校生活を送れたと思っています。本当に感謝しかありません。今までありがとうございました！！

S.N (福岡市立城西中学校出身):**九州産業大学(造形短期大)**

この3年間を振り返ると、切様琢磨できる友達ができたり、将来の夢を見つけられたり、新たな特技を身につけたりと、入学前に理想としていたことを叶えられた3年間でした。引越しやアルバイト、週2日コースから週5日、コースへの変更など、自身を取り巻く環境の変化も多く、とても充実した濃い時間でした。

これまで高校生活を充実したものにできたのは、友達と先生方の存在が大きいと考えています。今の友達がいなければ、ここまで学校に行きたいと思えてないだろうし、今の先生方がいなければ、ここまで学びに意欲を持てていなかったと思います。高校生活で人間関係に悩んだことは一度も無く、本当に良い人達に恵まれたと感じています。

私はこの高校生活でイラストレーターになるという将来の夢を見つけました。こう決めたきっかけらしいきっかけは無く、日々イラストの授業に出席したり、同じイラストの趣味を持つ友人たちと生活していく中でこの気持ちが培われていき、気づいたときには、この目標を掲げていました。将来の夢を決めてから、イラスト用具を購入するために約10年間続けていた剣道の習い事をやめ、アルバイトを始めました。アルバイトを通じて自己管理能力や責任力など、これから社会に出たときに求められる力を得られました。特に接客を通じて得られた初対面の人とのコミュニケーション能力は、高校生の内から役に立ちました。

この3年間は心身共に人生で最も成長した期間でした。言い換えれば、人生で最も成長したいと思えた期間でした。そのように思えたのも、自分がなりたいもののために全力を出すことができる環境と支えてくれる周りの人達があつてこそです。

今まで応援してくれた、そしてこれからも応援してくれる友達、先生方、家族には心から感謝しています。この3年間で最も大切だと思ったのは、あきらめずに、目標に向かって継続

することです。これから、より広い世界に出ていったら、何度も高い壁にぶつかり、今までの常識が通用しないこともあるでしょう。しかし、あきらめずに継続することが大切だ、ということは変わらないと考えています。並びに、高校生活で得た知識、技能、友達は私の人生において大きな助けになると考えています。

これからも、イラストレーターになるという夢に向けて、自分の信じた道を駆け抜けていきます。

末筆になりますが、高校生活を支え、応援してくれた友達、先生方、家族に心より感謝申し上げます。遊びにも学びにも全力を尽くせた、本当に楽しい3年間でした。

M. H (福岡市立城南中学校出身):[九州産業大学\(造形短期大\)](#)

私のこの長い長い高校生活を振り返って、まず第一に頭に浮かんだことは、周囲の人達の絶え間ない応援と支えがあったからこそ、ここまで辿り着くことができたという感謝の気持ちでした。何度も挫折し、やっと立ち直れたと思った所で、再びどん底に落ちてしまった時、同級生にも、年下の人達さえにも次々と追い越されていった時、「もう自分はこんなにも落ちぶれてしまったのだから、ここからどれだけ頑張っても無駄だ」と全てを諦めてしまい、現実から目を背けて、ただ息をするだけの日々を送ったこともあります。しかし、そんな周囲と自身を比べて苦しくなっていた自分を救ったのもまた、周囲の人々だったのです。勝手に劣等感を抱いて周りを避けていた私を、決して急かすこともせず、体調を気にしたり、一緒に悩んだりとさりげないサポートをし続けてくれた家族や親戚の方々、勇気を出して再び入学した福岡城西学園では、人付き合いが苦手で、自分から話しかけられずに戸惑っていた私に、多くの人が声をかけてくださったおかげで、ずっと一人だった私にも友達と呼べる人ができました。もちろん、比較的調子の良い今現在でも全てのことが上手くいっている訳ではありません。

「あの時もっとこうしておけば良かった」「なぜあんなことをしてしまったのだろう」と気づけば頭の中でグルグルと考え込むこともありますし、結果的に上手く立ち直れたとはいえ、あの時味わった辛さが消えて無くなる日は決して訪れないだろうなど憂鬱になる時もあります。大分意識が変わってきたとはいえ、まだ自分のことを好きとは言えず、大切にできないことが多いです。けれど、今まで人から与えられてきたあの優しさを自分の手で無駄にしたくないと心にとめ、もう少し頑張ってみようかなと思えます。

人を理由にしているようで良くないのかもしれないけれど、私にとっては周囲の人の支えこそが、私の頑張りの源動力なのです。これからも、沢山の人の手を借りながら、自分の夢に向かって、少しずつでも前進していこうと思います。長くなりましたが、ここ福岡城西学園で出会った全ての人に感謝の気持を伝えたいです。

本当にありがとうございました。

H. T (福岡市立香椎第1中学校出身):**九州産業大学(生命科学)**

私が思い出に残っていることは、スクーリングです。初めてスクーリングに行くってなったときは、すごく行きたくなくて 1 週間、鹿児島の学校で朝から夕方まで、ほとんど授業っていうのが自分の中ですごく嫌でした。でもいざ行ってみると普通の授業より分かりやすかったり、実験などもあって思ったより楽しかったです。体育も他校の人と少しだけ交流したり、コミュニケーションがとれたり、スクーリングの良さを感じました。また、スクーリングといえば夜の自由時間がめっちゃ楽しみでした。鹿児島のお土産を買えたり友達と一緒にご飯を買って食べたりで、授業はすごくきつかったけど自由時間があったからこそ頑張れた部分もあったし、自分の中でとてもいい経験になりました。スクーリングを通して普段話したことのない人とコミュニケーションをとれたり、同じ学校の人同士、協力したりたくさんのが学べてスクーリングの大切さも知ることが出来たのでそれも思い出です。

周囲への感謝の気持ちは特に先生方です。初めて転校してきたとき正直とても不安で学校の仕組みや友達も 0 からのスタートで右も左も分からぬときに、優しく授業のことだったり友達に声を掛け「一緒に仲良くしてねー」ってサポートしてくださったり、すごく頼もしかったです。生徒会の仕事でもちょっと先生と意見がぶつかったりしたけど、先生たちに協力してもらえたおかげで最後までやり通すこともできたり、受験が近くて分からぬ問題があった時も自分がわかりやすいように図や表を使って教えてくださったりと、授業がないときも時間をさいてくださり色々感謝でいっぱいです。

そして、今後の目標は、まず大学 4 年間単位を落とさず頑張ること、大学を辞めないことを目標にし、自分の将来に向けてたくさんの学びを増やし、学んだ知識や技術を自分の将来の夢に生かして後悔のないようにこれから頑張っていきたいです。

H. Y (福岡市立城南中学校出身):**日本経済大学(経営)**

私の高校生活での思い出は、テストで自分なりに満足いく結果が取れたことです。自分はすぐ集中力が切れるため全く勉強が進まず、中学時代テストが平均点を下回る事が多かったです。なので、高校生になったらテストでいい点数を取りたいと思い、勉強出来る友達に聞いたり、ネットで勉強方法を調べ色々試行錯誤し、自分に合った勉強方法を見つけることで集中力の問題を解決することができました。その結果テストでは自分なりに満足いく結果が出せたのでよかったです。

私は高校卒業したら大学に進学するので、この経験で身につけた集中力を生かし、勉学に励んでいきたいと思います。

T. M (糸島市立前原東中学校出身):**ビジュアルアーツ・アカデミー**

高校生活3年間を振り返って、入学当初に想像していた生活より充実していて、思い出すと、とても懐かしいと思う。最初は友達ができるかどうかなど、初步的なことで不安だったけど、体育祭やスクーリングなどを通して自然に慣れていった。そんな学校生活で掛け替えの無い友達とも出会うことができた。改めて振り返ると、大事な仲間がいてくれたおかげで充実した3年間となったのではないかと思う。

今後は、この充実した日々の思い出を胸に、夢に向かって努力していきたいと心から思う。最後に学校生活や進学についてなど困った時に寄り添ってくれた先生方、とても感謝しています。そして楽しい時も辛い時も、互いに支え合える事が出来る大切な友達へ、ありがとう。

M. I (肥前町立肥前中学校出身):**ザ クイーンズ ヒルゴ ルフクラブ**

私が高校生活で特に印象に残っているのは、文化祭と就職活動です。高校3年生最後の文化祭、当日に向けての準備期間もそうですが、当日には、自分たちのグループの前にお店を出していたグループが、予定していた時間より早くに完売し、自分たちのグループの開店時間が早まるという予想外のことが起き、その後はみんなと一緒に完売するまで忙しく動いていた記憶があり、印象に残っています。イベント事では良くも悪くもちょっとしたハプニングがあって、文化祭ではそのハプニングがあったからこそ、よりみんなで何かを成し遂げた達成感を感じることができ、とても印象的でいい思い出になりました。

就職活動では、なかなか自分の思うように進まなかったり、周囲と自分を比較して不安を感じたりすることもあり、どうしても気分が沈んでしまう瞬間があったように思います。そんな中、自分にとって一緒に就職活動をしていた友人の存在は大きかったと思います。友人と支え合なながらできたことで、1人だったら心が折れてしまうようなそんな時でも、「友人が頑張っているから自分も頑張ろう」と思えて就職活動に対するモチベーションに繋がり、無事乗り越えることができました。この高校3年間で、先生方や友人、家族など周囲の人の支え、居てくれる心強さ、ありがたさというものは今更ながら感じました。これから社会に出て、今までとは違う新しい環境での生活が始まり、わからないことばかりで戸惑うこと多々あると思うけれど、友人や家族など頼れる存在がいるということを忘れずに、時には誰かの頼りになるようなそんな人になれたらと思います。

Y.K (福岡市立原中学校出身):**福岡デザイン専門学校**

入学前の私へ。今、志望校に全部落ちて凹み、一番行く気がなかった福岡城西学園に入学することになって、不安やね。でも、志望校に落ちて良かったと思えるほどに福岡城西学園は楽しかったよ。

まずめっちゃ楽しくて、大切な友達に会えたよ。来鈴って子だよ。トイレで話しかけて大正解。ずっと一緒に居るよ。1週間毎日会ったり、1週間お泊りをするくらい一緒にいる。いっぱい色々なことを教えてもらって、色々なことに気づかせてくれるんだよ。大好きになるから、大切にしてね。

たくさん色々な人と友達になって、楽しいことばっかりじゃないけど、みんなが助けてくれるから頼って大丈夫。一人で抱え込んで怒られて、中学生までの時よりも人に頼れるようになったよ。

これからも無理せず、ほどほどに楽しみながら頑張っていこうと思います！

先生方、特に宮原先生、小林先生。たくさん相談を聞いてくれて、ありがとうございます。たくさん泣いてしまって少し恥ずかしかったけど、なかなか言いづらいことも相談して、話を聞いてもらえて、気持ちの整理ができました。何かトラブルが起きてもすぐに相談できることで、楽な姿勢で生活できました。ありがとうございました。

私と仲良くしてくれたみんな、特に来鈴、夢翔、結衣、のの、いっぱい相談とかグチ聞いてくれてありがとうございました。

よく泣き出しちゃってびっくりさせてごめんね。心配してくれてありがとうございます。たくさん話を聞いてくれて、意見を聞いてくれて、励ましてくれたおかげで、私が成長できたと思います。

大好きな友達も、後輩も、先輩もできて、幸せすぎる3年間を過ごせました。

福岡城西学園に入学して良かったです！

K.O (福岡市立姪浜中学校出身):**立命館アジア太平洋大学**

私は、福岡西陵高校一年生時の6月に起立性調節障害を発症し、一年間休学したのちに、この福岡城西学園にきました。この時の自分は一年間休学し、気持ちを切り替えて、再度西陵高校で頑張ろうと思っていた矢先の転校だったので、正直自分自身に少し失望していました。この時の私の通信制学校への印象は、生徒の活気がなく、何か負い目を感じているというイメージでした。しかし、実際に通ってみると、むしろ全日制の学校よりも自分のやりたいこと、興味あることを発信しやすく、皆何か事情があって神村に集まっている分、優しい人ばかりで、自分の個性を表現しやすい場所だと感じ、なんとなく肩の荷が下りた気がしたのを覚えています。

私にとって福岡城西学園での学校生活は貴重な人生経験になったと思っています。なぜ

かというと、全日制高校のように偏差値というものが存在しない分、多種多様な性格、価値観の人が一つの場所に集まるので、0から100までの考え方を見て聞くことができたからです。転校当初は、「こんな考え方で大丈夫か?」って思うほど自分を曲げない人や、「後先考えなさすぎだろ、、、」ってくらい行動第一の人など、第一印象は「友達になれるのか?」と思っていました。しかし、話していくとみんなそれぞれ譲れないものや、物事の捉え方が多様で、いろいろな価値観を持った人たちと友達になっていくのは楽しかったです。また、こんな環境の学校だからなのか、福岡城西の先生たちは皆優しく、親近感を持って接してくれるので、先生たちとのアニメや映画、趣味などの会話は楽しかったし、将来の話や経験談を交えた話は、自分たちにはない視点からの意見で勉強になりました。

この学校に転校してきて一番良かったことは、なんなくでも自分の将来像が見えたことです。この学校の時間割は、自分が興味あるもの、必要だと思うものを選ばないといけない性質上、私も最初の頃はなんとなく「映画やアニメ、またはそれに含まれるものが好き」だったのが、「英語や世界の国際情勢を学びたい」というように具体的にすることがきました。正直、今でも前の高校でほかの同級生と一緒に卒業できていた未来を考えないことはないですが、この学校で出会った学園アニメ並みに個性豊かな仲間たちや、普通の高校では絶対聞けない経験談や友達みたいなテンションで話してくれる先生方のおかげで、唯一無二の高校生活が送れました。ここでの経験を、これから先の人生でも活かして行きたいと思います。

T.I (福岡市立警固中学校出身):**福岡大学(商)**

私はこの学校に転入してきたときに、今までの環境と大きく変わったので戸惑うことがとても多かった。小学校から続けてきた野球も続けたかったので、練習見学に行った日のことを強く覚えている。それは今まで自分が見てきた野球とは180°違うものであった。正直レベルは高くない。

だが、練習を見るだけでもみんな野球が好きで楽しそうにしていることが伝わったし、先生も明るく振る舞いながら優しく、雰囲気も良かったので入部した。夏に全国大会があるということを見据えて、徐々に練習の質も高くなっていると感じていた。3年生だけで集まってポジションや試合で気を付けるべきことを話し合ったり、まるで甲子園を目指す高校球児のように、目指す場所は違うといえど、同じ目標に向かって切磋琢磨していくことに、とても充実感があった。

6月にあった全国大会予選、準決勝まで進みあと2試合で全国大会が決まるという中で、準決勝の試合は劣勢が続き2点ビハインドで最終回までできてしまった。1アウト、2アウト、となってしまいもう後がない展開に「ああ、自分の野球人生はもう終わってしまうのか」と、ふと思つた。こんなに長く続けてきたのに最後はこんなにもあっけないものなのかなと思っていたそ

の瞬間、1人安打で出塁、また1人出塁と瞬く間に一打サヨナラ勝ちの大チャンスとなった。このタイミングで自陣の打者が走者一掃のサヨナラヒット。皆がベンチを飛び出して祝福し合う中、私はベンチで1人安心したというか、よく分からぬ感情になっていたが、なんとか土壇場で首の皮一枚繋がった。続く決勝戦も必ず勝って全国大会を決めてやるという心の底から思ったことは覚えている。

結果から先に言うと、決勝戦にも勝利し、全国大会にも出場したが1回戦で敗退してしまった。3対4あと一歩の惜しい試合ではあったが、自分の力不足を痛感した。このままで終われないという気持ちが芽生え、大学でも野球をしようと決めた。次のステップに向けてトレーニングを積んで大学でも結果を残していきたい。

この学校でずっと行きたかったアメリカとフィリピン留学も、勉強して大学受験も経験した。そこで、たくさんの先生と関わって面接練習を手伝ってもらったり、留学の時は空港に見送りまでしてもらった。1人1人に優しく向き合ってくれる先生方に本当にとても感謝しています。

私は4月から大学生という新しい場所に行くが、やった分だけ自分の力となるし、やらなければなんにも自分の力にはならない自己責任だということを信念として持ち続け、人がやりたくないことを率先してやるような人間になり、後から振り返ったときに「あの時やっててよかった」と思えるようにしていきます。

出会った友達、先生たち本当にありがとうございました。この学校に入ってよかったです。

T.I (福岡市立西陵中学校出身): [佛教大学\(仏教\)](#)

高校生活を振り返ると、たくさんの思い出が浮かびます。その中でも特に印象深いのは、サッカーの全国大会に出場したことと、セブ島での1週間の語学研修です。サッカーの全国大会は、初戦敗退という結果にはなりましたが、自分自身最初で最後の経験だったので、その思い出は今でも心に残っています。セブ島での語学研修は英語の勉強だけではなく、ゴミ山や孤児院など普段見ることのない場所を直接見て回る貴重な機会でした。そういう場所を巡っていく中で、視野を広げることができました。若い内にこれらの経験をさせてくれた両親にはとても感謝しています。

今後は、大学での学びを通して、さらに人として成長し、視野を広げていきたいと考えています。これからも両親や周囲の人に感謝の気持ちを持ちながら生きていきたいです。

Y.K (筑陽学園中学校出身): [福岡ホスピタリティアカデミー](#)

私はこの学校に転校し、卒業するにあたって家族やたくさんの先輩方に支えられてきましたことに感謝しています。家族は些細な事でも親身になって寄り添ってくれました。時には迷惑を

かける事もあったけれど、自分の進路に対して肯定し、応援して貰えたことを何より感謝しています。

また、学校の先生方には英語検定 2 次試験の面接指導、部活動や進路相談などで沢山お世話になりました。そして、この高校生活では、検定取得に励みました。一般常識やビジネスマナーについて身につける為、秘書検定を取得したり、将来目指す職業は英語が必須の為、英語検定も取得したりしました。今後も検定取得は継続していきたいと思います。

最後に、私はエアライン科の専門学校に進学し大手航空会社のグランドスタッフを目指しています。その職業を目指すようになったきっかけは、空港という輝いた場所で、お客様が航空機へ搭乗するまでのサポートを行いたいと思ったからです。2 年間の専門学生生活を通してお客様へのおもてなしや臨機応変な対応ができるグランドスタッフになります。高校 3 年間、本当にありがとうございました。

T. I (福岡市立玄洋中学校出身):**株式会社毗ア**

僕は、福岡城西学園に入学してから 3 年間いろんな思い出があります。入学した頃は周りに馴染めるか心配で不安でしたが、友達もできて高校生活の楽しいスタートを切ることができました。中学では部活に入ってなく高校では部活入ろうと思い陸上部に入部しました。入部したときは分からぬことだらけでしたが、先輩達が優しく教えてくれてもっと学校生活が楽しくなりました。初めての県大会では最下位だったのを今でも忘れません。そこから次の大会で全国大会に行けるように日々がんばりました。2 年生の時の県大会では 3 位に入ることができ、全国大会に行けました。全国大会では、いい結果は残せなかったですが、寛太や先輩との思い出は沢山できました。3 年生でも全国大会に行けるようにがんばりましたが、怪我や体調もよくなく、練習にあまり行けなくなつて県大会では結果をだせずやしかったです。今後は、社会人になるということもあり、全力で今まで通りがんばつて行けたらいいなと思っています。3 年間先生方、ありがとうございました。仲良くしてくれたみんなもありがとうございました。

R. I (福岡市立原中学校出身):**中村学園大学(短期大)**

私の高校生活は「充実」した高校生活だったとはっきり言えます。福岡城西学園は通信制だからと言って選択肢が減ることはなく、文化祭や体育祭などのイベントもあるので、高校生として自分のやりたいこと・したいことを悔いなく過ごせました。その中でも印象に残っていることは体育祭です。私は運動が苦手なので、一年生の時は体育祭を見学していました。それでも私は体育祭に参加してよかったです。理由はそれぞれの学年が勝つために協力する姿や、部活対抗リレーでは見応えのあるリレー対決がおこなわれていたので、自身

が種目に参加することはなくとも見学という形で体育祭に参加してよかったです。私が種目に参加したのは三年生になってからですが、ここにもやり残したことは残っています。いとはっきり言えます。三年生になり、友達も増えてからは、様々なイベントに友達と参加するようになりました。正直、運動が苦手なのは三年間変わらなかったので最後の体育祭も見学しようと考えていました。ですが、その時一緒に参加してくれた友達が全体種目に参加しないかと誘ってくれたので、玉入れ、大縄跳びに参加しました。最初は自分が足を引っ張ってしまうのではないかと不安でしたが、参加後はみんなで何かに取り組む楽しさや参加してよかったです。ほかにも授業やイベントの中で参加してよかったです。思い出事がたくさんあります。参加したいと思っていても教室に入る勇気まではない私の背中を押してくれたのは先生や友達でした。限りある学生生活の中で悔いを残さないように過ごすのは難しいことですが、神村学園で学んだこと、経験したことを活かし、充実した大学生活を過ごせるようにこれからも努力していきたいと思います。

N.S (福岡市立城南中学校出身):**中村学園大学(流通科)**

私は高校1年生の2月に福岡城西学園に転校してきた。この学校に転校したことで、自分自身に向き合う時間が確実に増えた。結果、知ったこと・わかったことが3つある。

1つ目。自分が真面目すぎることを知った！そして壊滅的に融通がきかない！長所にも短所にもなる性格だと自覚した。一生付き合っていくものだから少しづつ考え方を変えていきたいと思う。しかし、それも自分の一部だから大事にしたいとも思う。2つ目。自分は自分の中にある「普通」に囚われていることが分かった。「普通」という言葉はそれぞれの人の経験によって変わる。今までの自分の中の「普通」に囚われず、これからはたくさん挑戦をしていきたい。3つ目。「頑張る」という言葉を使い、自分にプレッシャーをかけていることに気がついた。それからは「頑張る」という言葉を使うのをやめた。これからは「努力する」という言葉を使い、無理なく進んでいきたいと思う。自分を知れたことで、心に余裕が生まれるようになった。恵まれた環境にいると感じた。

通信制ならではの時間の使い方のおかげで、高校までの自分に足りなかった時間を補うことが出来た。これから的人生において、間違いなく意義のある3年間だった。苦しい状況の中、転校を決意して本当によかったです！あのとき決意した過去の私にありがとう伝えたい。

また、転校させてくれた両親、特に苦しい時に支えてくれた母にありがとう伝えたい。当事者である私より苦しそうだったから。たくさんの迷惑をかけました。これから両親が誇れるような人になっていくよ。見守っていてね。

今後は様々なことに挑戦しながら進む道を見つけていきたいと思います。また知らない自分をもっと見つけて自分の心を大事にして進んでいきたいです。そして親に感謝を忘れず、一生をかけて親孝行しながら生きていきたいと思っています。

最後になりますが、転校時相談に乗ってくださった平木先生、苦しい時期に何度も声をかけ続けてくださった宮原先生、受験期に励まし支えてくださった堀先生、その他学校の先生方、約2年間本当にありがとうございました。この学校を無事に卒業できて本当に良かった！！最高の2年間でした！

A. H (福岡市立田隈中学校出身):**佛教大学(文)**

この学校に入学した頃、私は期待と不安でいっぱいでした。中学生の時はあまり学校に通えていなかったので、高校ではきちんと通えるんだろうかという心配がありました。それと同時に、新たな学校生活に対する期待もありました。入学してみると、まず先生たちが生徒の顔と名前を全て覚えていることに驚きました。分からぬことを聞いたらすぐに教えてくれて、頼み事をしたら快く受け入れてくれて、先生達が私たちに気を配ってくれたおかげで、とても安心して学校に通うことができました。生徒主体で行われるたくさんの行事もそれぞれのペースに合わせて参加することができて、毎回とても楽しみでした。高校生活を通して、たくさんの友達とも出会うことができました。皆のおかげで笑顔が絶えない高校生活でした。そして、たくさん言いたいことがあつただろに、私のやりたいようにさせてくれた家族にはとても感謝しています。

四月から県外の大学に通うことになり、友達や家族から離れることになります。私は今までたくさんお世話になった皆を安心させて恩返しできるように、まじめに勉強に励み、新しい生活を思いっきり楽しもうと思います！

W. N (福岡市立城西中学校出身):**福岡中央美術予備校**

高校生の自分を振り返ると、3年間で私の考え方や価値観は大きく変わったと感じます。1年生の時は、スクーリングや試験、高校生活の色々なことに不安を感じていました。あの時、私のことを考え、気遣い、サポートしてくださいたった担任の先生には本当にお世話になりました。いつも笑顔で色々なことを話してくださったこと、忘れません。ずっと感謝しています。先生が勧めてくださった、放課後等デイサービスのチロルに、3年生から通い始め、そこでも先生方が私を受け入れてくださり、笑いながら話をしたり、サポートしてくれて、すごく自分の助けになっていました。短い1年間でしたが、楽しい時間を過ごすことが出来ました。チロルで先生と話す時間が好きでした。私にとっては、先生方に出会えたことが高校生活で最も大切な出来事です。

3年前の自分がした選択は良かったのだと思います。3年間大変お世話になりました。

ありがとうございました。忘れません。

K. M (筑紫野市立二日市中学校出身):**久留米自動車工科大学校**

2年生の時は進路に向けて取捨選択をして行動することが出来た。最初の危険物乙4の試験はボロボロだったけど、年内に受けた2回目の試験では、後1歩の所まで行けて嬉しかった！！3年生では進路決定や数学の勉強、危険物乙4にも力を入れてやった。今年中に乙4に必ず合格する。今後はやるべき事と、やらなくてもよい事を取捨選択し、自分の苦手なことへも挑戦したいと思う。

お母さんへ いつも弁当やご飯を作ってくれてありがとうございます。

未来の俺に

努力は絶対裏切らない、しっかりやるべき事をやって整備士になれ。

Y. N (福岡市立姪浜中学校出身):**九州産業大学(造形短期大)**

この学校に入学して、緊張の中、入学式に出たあの日のことがまるで昨日のように感じます。私はこの三年間で最高の友達に恵まれました。分からぬことだらけの中で一緒に成長して、悩んで考えて、時に羽目を外して遊んで、誕生日を祝い合って、スクーリングや文化祭、体育祭などのイベントを乗り切って、ともに支え合った仲間たちは、この高校生活で得た一番の宝だと胸を張って言えます。

これからその仲間たちはもしかしたら疎遠になってしまうかもしれないし、またみんなで再会できる見通しだってつかないけれど、ここで紡いだ一生忘れることのない思い出たちは、人生を通して頑張って行く中で、ふと足を休ませてくれる支えになると思っています。

卒業して、新たな地でも自分を磨き、絶えず成長していきながらも、人との出会いやつながり、経験を大切にし、自身の将来をよりよいものへと変えていきたいと思います。

K. K (福岡市立原中学校出身):**中村学園大学(栄養科)**

高校生活を振り返ってみてとても充実した3年間だったなと思いました。

1年の秋に転入し、最初は、不安でいっぱいでした。また、全日制高校から通信制への転入ということもあり、通信制の自由な制度に当時は困惑していました。しかし担任だった今野先生が優しく声をかけて下さり、会うたびに体調を気にかけて下さって安心しました。まずは午前中登校してみようということで少しづつ授業にも出席し、午後からは大学進学に向けて自主学習をしたり、体調を安定させるために通院や運動を頑張ったり有意義な時間を過ごすことが出来ていたと思います。2年生では、少しづつ学校での生活にも慣れてきて、午前中までの登校でしたが、1年生の時よりも多く出席できました。また、レポートも計画的に進められるように取り組み、苦手な数学は担任だった宮原先生に教えてもらい解決しました。まだこ

の時は行きたい大学など、進路ははっきりしていませんでしたが、苦手な数学を克服しようと豊田先生の数学の授業に必ず出席するようにしていました。参考書や動画を見て自宅で一人で勉強することもできますが、実際に先生と対面した授業はとても分かりやすく集中もでき、楽しく学ぶことが出来ました。数学の苦手は克服できたわけではないですが、嫌いな教科だったのに勉強してて楽しいと思える教科になりました。とても感謝しています。

また、人見知りでなかなか自分から声をかけられずにいましたが、担任だった宮原先生が繋いで下さって、少しずつですが話せる友達も増えていき、体育祭や文化祭にも参加することができました。3年生になって自然と友達も増え、学校に行くことが楽しくなっていました。8割ぐらい登校でき、午後まで残ることが出来るくらい体調も安定し、体力もつきました。一緒に登下校したり、休みの日も一緒に遊んだりする友達もでき、たくさんの思い出を作る事ができました。そして受験生だったので毎日勉強も頑張りました。受験科目にある授業を中心に受け、特に平木先生の現代文と、荒神先生の数学の授業が印象に残っています。どちらの先生もとても親切に接して下さり、わかりやすかったです。また、今野先生には小論文を、何度も採点して下さってありがたかったです。担任の堀先生には受験のために色々準備して下さったり、別室受験の配慮をしてくださったおかげで、当日も安心して受験に挑むことができました。面接練習も何度も何度も付き合ってくださって、自信を持つことができました。いつも優しくて明るかったので、堀先生とはとても話しやすかったです。

一緒に時期に受験する友達と一緒に勉強したり、公園で面接練習をしたり、その時はとても必死でしたが、振り返ると良い思い出だと感じました。行事や休日も楽しく過ごすことが出来て、高校三年生の一年間は特に充実していたと思います。

今後は中村学園大学への進学が決まり夢である管理栄養士になることができるよう努めたいと思います。高校三年間を振り返ってみて、本当に様々な人に支えてもらったおかげで充実して過ごすことが出来ていたんだと感じました。これから先も、もっと多くの人と出会いがあると思うので大切にしていきたいです。今まででは自分は支えてもらう側でしたが、今度は自分が人を支えることが出来るようになりたいです。今は大学がとても不安です。しかし、この3年間でやってきたように、自分がやるべきことをまずはしっかりとやって、なんとかなると思って頑張りたいです。そして今よりもっと周りと自分を大切にして自分から積極的に動くことができる人になります。

Y.K (福岡市立箱崎中学校出身):別府大学(文)

福岡城西学園で過ごした三年間は親切な方々に囲まれ、たくさんの忘れられない思い出を作る事ができました。ここでは、三年間を通してお世話になった方々に感謝を伝えたいと思います。

友人たちは私にとってかけがえのない存在です。いつも私を気にかけ、喜びを分かち合つ

てくれました。私が充実した高校生活を送れたのは親身な友人たちが居てくれたからこそです。また、生涯の親友と言える方にも出会うことができました。文化祭や体育祭などの行事、レポートや試験勉強で机を並べたことから何気ない会話まで。彼女との楽しい思い出は数えきれないほどです。そのうえ、いつも私に起きた良い出来事を自分のことのように喜んでくれ、悩み事には真摯に向き合い、話を聞いてくれました。彼女は私の心の支えであり、憧れの人です。同様に、私を見守り、支えてくださった先生方には頭が上がりません。入学当初から学校に馴染めるようにご配慮いただき、それに加え、普段の授業や行事、スクーリングなどが順調に進められるようにご尽力くださいました。そのおかげで私は楽しい高校生活を送っていたのだと実感しています。そして進路についても親身に相談に乗っていただけました。志望校に無事に合格できたのは、先生方のご指導とご協力のおかげです。また、先生方からは多くの人生における大切な考え方や教訓をもご教示いただきました。これからもその教えを胸に前進していきたいと思います。加えて、高校以前から私を支えてくれている家族、そして行事の企画運営や学校の改善に尽力してくださった生徒会や委員会の方々をはじめ、ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。最後に、三年間、本当にありがとうございました。

R. H (福岡市立城西中学校出身):**麻生美容専門学校(美容)**

高校生活を振り返ると、この3年間は本当にあつという間で、とても充実してたなと感じます。文化祭や体育祭、成果発表会など、いろんなイベントに参加して、たくさんの思い出ができました。特に印象に残っているのは、セブ島への短期留学です。2年生の秋に、先生や友達と6泊7日でフィリピンに行きました。現地の先生とのマンツーマン授業やアイランドホッピング、ゴミ山の訪問、現地の学生との交流など、日本ではなかなかできないような経験をたくさんさせてもらいました。この留学を通して、友達との仲がさらに深まったし、普段あまり話したことがなかった人とも仲良くなることができました。現地の人たちとも交流できて、本当に忘れない思い出になりました！学校生活では、ダンスと軽音の選択授業がすごく楽しかったです！ダンスでは仲間と息を合わせることの大切さを学び、動きが揃うととても嬉しかったのを覚えています。軽音ではギターを演奏する楽しさを知って、仲間と音を合わせる時間が毎週楽しみでした。練習がキツい時期もあったけど、みんなで励まし合いながら乗り越えたことで、大きな達成感を味わうことができました。この3年間で、いろんな経験をして、人として少しは成長できたんじゃないかなと思います。こんなに充実した毎日を過ごせたのは、いつも一緒にいてくれた友達や先輩、後輩、そして温かく見守ってくれた先生方のおかげです。本当に感謝しかないです！高校生活はこれで終わりだけど、ここで学んだことや経験したことを忘れずに、これからも自分の夢に向かって頑張っていきたいと思います！

M. T (盛岡市立見前中学校出身):**福岡大学(商)**

福岡城西学園に転入して、約4か月という半年にも満たない短い期間だったが、とても充実した時間を過ごせたと感じている。最初の頃は人見知りが激しく、友達ができるか不安だったが、少しずつ友達をつくることができた。温かく迎え入れ支えてくれた友達に心から感謝している。また、新しい土地での生活、通信制という未知な学びの形、受験へのプレッシャーや人間関係の不安など、多くの要素が重なり戸惑うことが多かった。しかし、担任の堀先生をはじめ、様々な先生方の支えがあったからこそ、ここまでくることができた。

本当にありがとうございました。

そんな福岡城西学園での学校生活の中で考えたことがある。それは「適応」と「選択」どちらがより良い生き方かということだ。柿坂先生が冬休みに入る前の終業式で「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を紹介されていた。これはノートルダム清心学園理事長だった渡辺和子さんの言葉であり、どんな環境でも自分の今置かれている環境を受け入れ、その上で自分を輝かせる努力を続けなさいという意味だ。有名な言葉であり、私も何度も耳にしたことがあった。この言葉を聞き、自分の現状と重ね合わせ、改めて置かれた環境について考えた。それまでの私は、人間には誰しも合う合わないがあり、合わない場所で咲けるかもわからない場所で努力し続けるより、自分で選択できる、行動ができる自由な時代に生まれたのだから、自分に合った場所を自分で選択することが大切だと考えていた。しかし、現実を見てみると、全ての人が自由に自分の望む場所を選択できるわけではない。様々な制約がある中で、理想の環境を見つけることは難しく、多くの人が妥協を余儀なくされる。そして、困難な環境で努力する姿勢は逆境を乗り越える力を養うことにつながる。私自身、転校後に新しい環境に適応することの難しさを感じた。最初は不安でなじめる気がしなかったが、少しずつ友達ができ、生活に慣れていくうちに、咲くためには選択する力だけではなく、適応する力も必要なのではないかと思う。

結局、どちらが良いというのではなく、状況に応じてバランスを取ることが大切だと思う。そのため、これから的生活で自分の状況を見極める力、努力する力、行動する力、この3つを身につけられるように頑張っていきたい。そしてどんな環境でも挑戦する気持ちを忘れずにいたい。いつ終わるかも分からない人生、何歳になってもチャレンジ！！

N. H (福岡市立百道中学校出身):**大学浪人**

福岡城西学園で卒業できることを嬉しく思います。

通信制という形でしたが、三年の間で友人にも恵まれました。しポートの締切前に慌てたり、スクーリングの自由時間では修学旅行のような気分を味わえたりと、決して他と劣らない高校生活でした。唯一無二の時間を作ってくださった先生方にも頭が上がりません。あり

がどうございました。制服にそでを通す機会が限られてくると思うと少し名残惜しいです。現時点で大学の合否が出ていないので卒業後の通路に関しては何も言えないのですが、どんな形であれ、笑顔で卒業を迎えることができたらいいなと思います。三年間の思い出を忘れずに、この先も生きていきたいです。

Y.S (鳥栖市立鳥栖西中学校出身):[平岡調理・製菓専門学校](#)

私の高校生活3年間は、今までの人生で一番濃い3年間でした。

私は中学3年間学校を休みがちで、いわゆる不登校でした。学校に行くことが怖くなり、人と話すことが怖くなり、前の自分の性格と比べると、とても消極的な性格になりました。将来のことを考えることは愚か、明日のことも考える余裕がありませんでした。そんな私が高校に入つてやっていけるのか不安でしかたがなかったです。

入学当初は誰とも話せず、グループワークのときに話すだけ、あいさつだけ、の私でしたが、クラスで行ったゲーム大会や、色んなイベントをきっかけに話すようになつたり、イベントの準備で仲良くなったり徐々に友達と呼べる人たちができました。体育祭も文化祭もスクーリングも、この先の人生で何にも代えがたい時間でした。特に、高校2年の秋に行つた、1週間のセブ島留学は私の人生を大きく変えた時間の1つです。そこで経験した良いことも悪いことも、私にはすべて刺激的で、私の小さな世界をぶち壊して大きな世界に広げてくれました。この1週間の経験が、私をひと回りもふた回りも大きく成長させてくれたと思っています。中学では想像もできないような経験をたくさんした私が決めた将来の夢は、調理師です。食べることも作ることも好きで、特に誰かに作って喜んでもらうことが好きなので調理師になるために頑張ろうと思います。3年間猛スピードで日々が過ぎていく中、私が沢山の経験ができたのは、裏でたくさん準備して下さった先生方や、私がしたいことを手放して応援してくれた両親、一緒に楽しんでくれた友だち、そして私が出会つたすべての人のおかげです。それはこの高校に入らなかつたら思うこともなかつたことなので、私がこの高校に入れるようにサポートして下さった中学校の先生にもとても感謝しています。中学校での経験ができた良かつたとは思わないけれど、あの経験で今の私があると思うので、あの3年間は無駄じゃなかつたと思います。これから続く長い人生で、私はまたたくさんの経験をすると思うし、辛いことも壁にぶつかることもあるだろうけど、私がこの3年間で沢山挑戦してのりこえてきたように挑戦して、失敗してのりこえて、色んな世界を見られるように努力したいです。そしてまずは調理師になるまでの過程を楽しんでいきます！

A.K (福岡市立当仁中学校出身):日本デザ-学院

私は中学1年の頃、学校を休みがちになりました。中学校では校則も厳しくなり、自分はちゃんと守っていても連帯責任になる…怒られたらどうしよう…とビクビクする毎日で、心休まる時間もありませんでした。あまりの環境の変化にだんだん心も体も限界になりました。学校は行かないといけない…でもきつくてつらい毎日でした。そんなきつかった毎日を変えてくれたのが福岡城西学園での時間です。

ゆっくり一歩ずつ、自分のペースでやる事ができ、心にも余裕が持てるようになりました。福岡城西学園は一人ひとりの個性を大切にしてくれて、その人のできること、得意なことや好きなことを伸ばしてくれる学校だと感じました。専門学校への進学を決められたのも「ハンドメイド&リメイク」や「レザークラフト」の授業を通して自分の好きなことに気づけたからだと思います。福岡城西学園でなかつたら、未だに自分の好きなことに気づくことが出来ていなかつたかもしれません。

学校行事の「文化祭」や「体育祭」などでも、生徒一人ひとりがそれぞれの形で参加できたおかげでとても楽しい思い出となりました。3年間の高校生活の中で、きつい時、苦しい時、悩むこともたくさんありました。

でも、そんな困難を乗り越えられたのは不安になった時、いつも担任の先生が優しく寄り添ってくれたからです。たくさん相談にのってくれて、たくさん話を聞いてくれました。先生も忙しいはずなのに、私のために時間を作ってくれる、それだけでとても嬉しかったです。先生の優しさに何度も助けられました。本当にありがとうございました。

また3年間でできるようになったこともあります。高校1年生の時は緊張して受けられない授業や教室に入るにも勇気がでない時がありました。登校も1週間に1日も行けない時もありました。でも今では色々な授業に出ることができ、受けたことのない授業にも挑戦できました。さらに、遅刻でも登校できるようになりました。3年の最後には週5日行けた時もありました。福岡城西学園ではありのままの自分でいることができ笑顔になる時間も増えた気がします。先生方や親友のおかげで、福岡城西学園が私にとって安心できる居場所になりました。福岡城西学園に来て、初めて「学校が楽しい」と思うことができました。この学校で過ごした時間は私の宝物です。

福岡城西学園に来て、たくさんの方と出会えて、本当に本当に良かったです。支えてくれたたくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。感謝の気持ちを忘れず、今までたくさんの人にしてもらったことを次は私が自分にできる方法でやりたいと思っています。

雑貨やアクセサリーなど私の作った作品を通して多くの人に笑顔や安心感を届け、幸せな人が一人でも増えるようにしたいです。誰かの助けになる、心に届くものを作れるようこれからも頑張りたいです。

S. T (久留米市立北野中学校出身):**Be-staff**

私は1年の秋に転校してきました。最初は仲良い友達ができるか、馴染めるか不安でしたが、自分でもびっくりするほど早く学校に慣れて、沢山の友達を作ることができました。また、先生方が本当に優しくて、気さくに話してくれることにすごく驚いたのを今でも覚えています。

私の高校生活を振り返ると、すごく充実していたと感じます。文化祭、体育祭、スクーリング、成果発表会、セブ島留学、ハロウィンイベントなど、積極的に取り組んだことでとても楽しい思い出になりました。その中でも印象に残っているのはセブ島留学です。初めての海外で何もかもが新鮮でワクワクしました。大好きな友達との忘れられない思い出を作ることが出来て、引率してくださった先生方にはとても感謝しています。普段の授業もリラックスした雰囲気で受けることが出来て、楽しみながら授業に参加していました。ダンスの授業では元々好きだったダンスがもっと好きになったし、先輩や後輩とも仲良くなれて本当によかったです。

お弁当食べながらおしゃべりしたり、放課後沢山遊びに行ったりと、何気ないけど高校生ならではの日常がすごく楽しかったです。この学校に入って色々なことに挑戦する行動力、寛容な心、無理をし過ぎないことなどが身についたと思います。温かく接してくれた先生方、仲良くしてくれた友達にすごく感謝しています。

3年間本当にあつという間でした。ありがとうございました。

R. Y (福岡市立三筑中学校出身):**就職**

私は高校生活でとても成長することができたと思う。高校に入学する前は人間関係が上手くやっていけるかという不安しかなかった。そんな思いで始まった高校生活は、沢山の思い出が残る高校生活にすることができた。1年生の頃は、とにかく必死に周りについていく1年間だった。クラスに早く馴染めるように周りに積極的に話しかけに行って友達を作っていた。ゲームが好きだったので同じゲームが好きな人と話したり、とにかく話題作りを頑張った。また私は野球が好きで、野球部に入ると優しい先輩が多く、その先輩達と練習をしていく上で、だんだんボールが取れるようになったりして、勝ち進んだ全国大会でもグラウンドに立つことができた。その時の嬉しさは忘れられないものになった。2年生になると居酒屋でアルバイトをはじめた。そこでは人生で初めてのアルバイトということもあり、失敗や学ぶことがとても多く、落ち込むことも沢山あった。しかし、バイトの先輩や他のアルバイトをやっている友達にアドバイスを聞くことで、自分の中でミスが減っていったなと感じる瞬間が増えていった。また友達と遊びに行くことが増えたことで、今まで興味がなかったことややってみたいことをすることが多くなった。3年生になってからは、より色んな人との距離が近くなっていた。それまで話してこなかった人や遊んだことのない人とも仲良くなったりしてどんどん学校生活

への楽しさが増していった。後悔しない高校生活にするために、今までしてこなかった行事に積極的に参加することもあった。特に体育祭で友達とリレーを走ったりできて、一日中笑って終わることができた。

この高校生活3年間は沢山の思い出ができた。色々な経験をすることで悔しいこともあったけど、それよりも楽しいとか嬉しいとかの方が多くすごく充実した3年間を送ることができた。この3年間の出来事はこれから的人生の中でもとても価値のある3年間になったと思う。

N.T (福岡市立城西中学校出身):**海外ワーキングホリデー**

「もう卒業かー」卒業の日が近づくたびにそう思う。

僕は「やりたいことがある！」と豪語し、この学校に入学した。正直やりたいことは無く、強がっていたのだろうと思う。高校一年生、家にいることが多く、時間が経つのが早かった。学校にはたまにしか行っておらず、友達ができるわけがなかった。そんな中、友達ができ、その日から学校生活が少し明るくなった気がした。友達は学校に来ない僕をゲームに誘ってくれたり、色々遊んでくれた。やりたいことが無い僕の言った「やりたいことがある」を、現実にするために誰もしないような事。映画を作ることにした。完成した作品は、他のチームの作品より再生回数が多く「一位になれる」そう思っていました。だけど賞は取れず、ぱりくやしかった。

僕は映画を作る事をやめた。時間はどんどんすぎていった。高校二年生、この学校の新しいプロジェクト「フィリピン短期留学」僕は迷わず行くことを決めた。僕はこのプロジェクトのおかげで人生が変わったと思う。僕は海外に行くと本当の自分を出すことができるので、いつも通り出すと、とあるマフィアみたいな人に声をかけられた。そいつは同じ学校の先輩だった。先輩のおかげで、日本に帰っても本当の自分を出すことができ、中学生の時に捨てた本当の自分を取り戻す事ができた気がした。それからは、どんどん色んな人と関わり友達が増えて行った。高校三年生、先輩たちは卒業したけど、変わらず遊んだ。同級生にもたくさん友達ができ、あん時のリベンジ映画で賞を取ることを決めました。色々な人に声をかけ、集まつたのは少人数、経験のない人がほとんどだった。48時間以内に、脚本、撮影、編集を終わらせなくてはいけなかった。正直終わる気がしなかった。

だけどみんなの吸収力がすさまじくギリギリで終わった。すごいと思ったよ、みんなプロだね！！

だけどギリギリに作ったこともあり、賞が取れるか不安しかなかった。授賞式の日、学生賞の部でチーム名が呼ばれ見事、学生一位をゲット。すごくうれしかった。前回のリベンジで賞をもらえたことがうれしかった。

そんな色々な事があった高校、良い事も悪い事もあった学校生活。

僕は今、フィリピンに行けるようにがんばってます。

同窓会の時、おもしろい話いっぱいできると思うから、いっぱい飲んで話そうな！！

K. T (福岡市立原北中学校出身):**福岡デザイン&テクノロジー専門学校**

僕が高校生活で印象に残っていることは、高校を転学したことです。高二の夏頃に全日制から通信制へ転校してきました。最初は、色々と不安なことがあったけれど、だんだんと高校生活に慣れてくると、その不安も無くなりました。それでも、学校を転校したことを後悔する時が時々ありました。

「なんで転校したんだろう」や、「あの時もっと頑張っていれば」など、過去のことを思いだして色々とマイナスなを考えることが多くなりました。

しかし、この経験から、今を大事にするということを学びました。

専門学校では、この高校生活で学んだことを生かし、つらいことがあっても、頑張ることや色々なことに挑戦し、今を大事にしていきたいです。

最後に、この高校生活で成長できたのは、色々な悩みを優しく相談に乗ってくれた親や先生方、また、真剣に進路のことを考えてくれた堀先生や小林先生のおかげです。

約一年間ありがとうございました。

S. K (糸島市立前原東中学校出身):**福岡市医師会看護専門学校**

私は、高校2年生から福岡城西学園に転校し、不安でいっぱいでしたが、先生たちや周りの友達がとても優しくしてくれたこともあって、すぐに慣れることができ、二年間、たくさんの楽しい思い出を作ることができました。

たくさんの新しい出会いがあり、すぐに友達もできました。いつも優しく親切に接してくれ、サポートしてくれた先生方には、本当に感謝しています。レポートや、1週間のスクーリングなど、全日制ではなかった大変なこともあったけど、転入して新しくできた友達と、毎日笑いながら、学校に通うことができました！！

放課後も下校時間までトランプしたり、みんなでたくさん話したり、転入したばっかの時は、絶対できないと思ってた自分の思っていた高校ライフができて、本当に毎日楽しかったです！！

たくさんありがとうございました！！

《令和6年度 部活動結果》

【野球部】●全国高等学校定時制通信制軟式野球大会

・出場

●定時制通信制福岡県軟式野球大会

・優勝

【サッカー部】●定時制通信制福岡県軟式野球大会

・準優勝

【陸上部】●全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

・個人出場

(男子400m/男子走り幅跳び/男子砲丸投げ/
男子100mリレー/男子400mリレー)

【探究部】●QUEST CUP 2025

・SMALL START部門 佳作





福岡城西学園

あとがき

生徒一人ひとりに書いていただいた文章を読ませていただきながら、それぞれの生徒が入学試験・転校試験の面接に来た時の表情、お話を思い出しています。そして、それぞれの時間をこの福岡城西学園で過ごし、それぞれの葛藤や困難と向き合いながらこの卒業を迎えるました。その間に皆さんの顔立ちもしっかりと確実に「大人の顔」へと成長してきました。その変化はとても大きなもので、おそらく皆さん自身にもはっきりと見て取れる変化だったと思います。

その成長の時間を思い出としてこの文集を作成しました。皆さんのが 10 年後、20 年後に、この冊子を見返し、過ぎ去った時間を思い起こしながら、また明日への生きる糧にしていたければと思います。